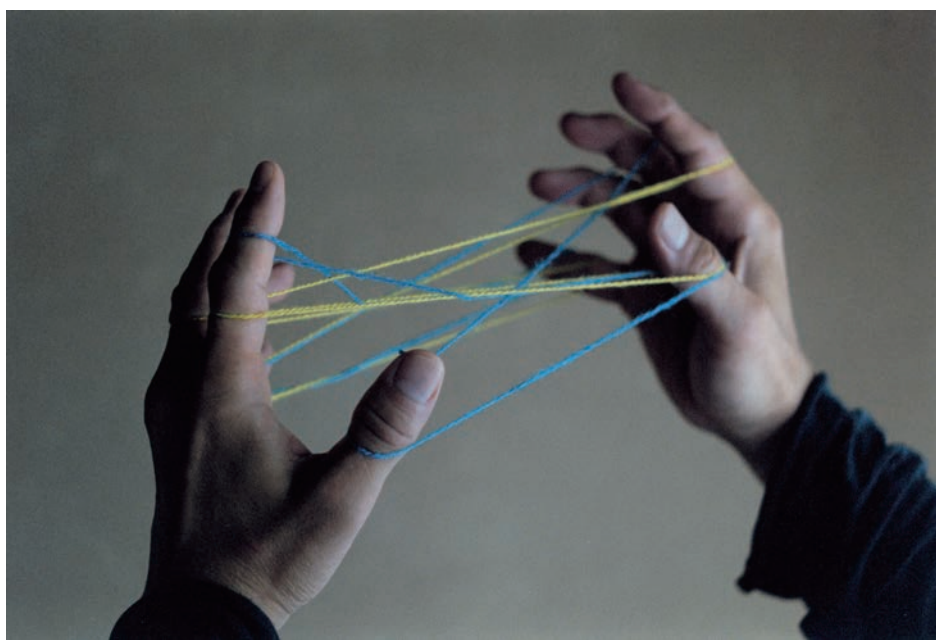


はじまり おわり すすみ もどる

こころ かたち 心と象のつくとつづく

プレスリリース
PRESS RELEASE

「特別な日常服」をコンセプトにもものづくりを続け、
青森県立美術館のユニフォームも手がけるミナ ペルホネン
当館で大規模展覧会を開催



© Yoshihiko Ueda

展覧会名：ミナ ペルホネン／皆川明 つづく
会 期：2022年7月16日（土）－ 10月2日（日）

休 館 日：7月25日（月）、8月8日（月）、22日（月）、9月12日（月）、26日（月）

開館時間：9：30－17：00（入館は16：30まで）

※7月23日（土）、8月27日（土）、9月10日（土）、24日（土）は20:00まで開館（入館は19：30まで）

会 場：青森県立美術館

観 覧 料：一般 1,500（1,300）円、高大生 1,000（800）円、小中学生以下無料

※（ ）内は前売りおよびWebチケット料金。Webチケットはシステム利用料等別途165円が必要となります。

※前売券はローソンチケット（Lコード21564）、青森県立美術館1F受付で6月16日（木）から7月15日（金）まで販売。

※障がい者手帳をお持ちの方と付添者1名は無料。

主 催：つづく展青森実行委員会（青森県立美術館、朝日新聞社、青森県観光連盟）

後 援：青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、エフエム青森、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、
青森県教育委員会、青森市教育委員会

※マスクの着用、検温、手指消毒等、感染症の予防・防止対策にご協力ください。

※新型コロナウイルス感染症の感染状況等により本展の予定や内容が変更となる場合があります。当館ホームページ、展覧会特設
サイト等をご確認の上、ご来場いただきますようお願いいたします。



青森県立美術館ホームページ
www.aomori-museum.jp



展覧会特設サイト
mina-tsuzuku.jp/

ミナ ペルホネン／皆川明の創作の秘密に迫る過去最大規模の個展

■展覧会概要

デザイナーの皆川明(1967-)が設立したブランド、ミナ ペルホネン。流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、日本各地の生地産地と深い関係性を紡ぎながら、オリジナルの生地からプロダクトを生み出す独自のものづくりを続けてきました。

皆川がミナ ペルホネンの前身となる「ミナ」を立ち上げたのは1995年。「せめて100年つづくブランドに」という思いでファッションからスタートした活動は、その後、インテリアや食器など次第に生活全般へと広がり、現在ではデザインの領域を超えてホスピタリティを基盤にした分野へと拡張しています。そのたゆまぬ歩みは、2020年に25周年を迎え、これからも続けていきます。

本展覧会の「つづく」というタイトルは、文字通りブランドの時間的な継続性を示すものですが、それだけでなく、つながる・連なる・手を組む・循環するなど、モノや人が連鎖し何かを生み出していく生成のエネルギーを想起させる言葉でもあります。多義的な意味をもつ「つづく」をキーワードに、本展覧会では、生地や衣服、インテリア、食器等のプロダクトに加えて、デザインの原画、映像、印刷物、皆川明の挿絵など創作の背景を浮き彫りにする作品群や資料も併せて展示いたします。

ミナ ペルホネンと皆川明のものづくりとその思考をこれまでにない規模で紹介する本展覧会は、私たちの日常生活やその先にある社会の仕組みについて新たな視点と示唆をもたらすことでしょう。

展示構成: 田根剛 (Atelier Tsuyoshi Tane Architects)

展示構成補助: 阿部真理子 (aabbé)

グラフィック・デザイン: 葛西薫 (sun-ad)



“metsä” 2012→SS photo: Yasutomo Ebisu

■展覧会の見どころ

○1995年に皆川明が立ち上げ、「特別な日常服」をコンセプトにもものづくりを続け、青森県立美術館のユニフォームも手がけるミナ ペルホネンの過去最大規模の展覧会。2019年に東京都現代美術館で14万人以上が来場、以降、兵庫県立美術館、福岡市美術館と続き、東北・北海道では初開催となります。

○生地や衣服のみならず、インテリア、食器等のプロダクトやデザインの原画、映像、印刷物、皆川明の挿絵などミナ ペルホネンの創作の全貌を紹介する大規模な展覧会。通常の企画展示スペースに加え、エントランスギャラリーや美術館前の広場にも関連作品が展示されます。

○会場構成は弘前れんが倉庫美術館を手がけた建築家・田根剛が担当。青森県立美術館の空間がまた新しい表情を見せてくれます。

○グラフィック・デザインはアートディレクターの葛西薫が担当。

○皆川明原案、建築家・中村好文設計による新たな「宿」のプロトタイプを会場内に展示します。

○現代美術家・藤井光がミナ ペルホネンの世界を撮り下ろした映像作品を上映します。

○初公開。美術館前広場に皆川明がデザインした屋外作品「遊具」(製作: ジャックエツ)が設置されます。

○会期中、関連イベントとしてトークやワークショップを開催予定。



“life puzzle” 2019 photo: Hua Wang

■特設ショップ

本展会期中、ミナ ペルホネンのグッズや洋服を取り扱う特設ショップを開設します。

場所:美術館地下2階 特設会場

■展覧会公式カタログ

展覧会公式カタログは、東京展の会場写真を収録して、展示の空気そのままにお届けします。また、青森県立美術館のユニフォームにも使用されている「choucho」柄の限定カバーが青森会場から登場する他、各種限定カバーも販売します。

著者: minä perhonen / 皆川明

装丁: 葛西薫

撮影: 上田義彦、瀧本幹也、在本彌生ほか

仕様B5変型(257×172mm)、上製本カバー掛

定価3700円+税



限定カバー"choucho"



通常版カバー

■関連イベント

「ミナ ペルホネン / 皆川明 つづく」青森会場の開催を記念して、下記関連イベントの開催を予定しています。

下記以外の新しいイベント情報は決定次第、青森県立美術館の展覧会ページ(www.aomori-museum.jp/schedule/10182/)、及び特設サイト(mina-tsuzuku.jp/)にてお知らせします。

○皆川明公開制作

展覧会の開幕に先立ち、皆川明による公開制作を行います。2.7×5.4mの巨大なキャンバスの上に、皆川の豊かなイメージの世界が生み出されていきます。完成した作品は会期中、エントランスギャラリーに展示されます。

日時: 7月13日(水)～14日(木) 10:00～16:00頃

会場: 青森県立美術館 2番エントランス前

観覧無料 ※「密集」しないよう人との距離をとってご覧ください。

○開幕記念スペシャル鼎談: 皆川明+青木淳+菊地敦己 〈参加無料〉〈要予約〉

青森県立美術館のユニフォームデザインを担当した皆川明と、青森県立美術館の設計者である建築家・青木淳、V.I.を手がけたアートディレクター・菊地敦己によるスペシャル鼎談を行います。開館以来初となる夢の共演です。

日時: 7月16日(土) 14:00～16:00

登壇者: ミナ ペルホネン・皆川明、建築家・青木淳、アートディレクター・菊地敦己

会場: 青森県立美術館 シアター

定員: 80名(要事前申込)

参加無料

(ただし企画展チケット半券又はオンラインチケットのQRコードが必要です)

※申込み期間: 6月16日(木) 9:30～7月3日(日) 17:00



青森県立美術館スタッフユニフォーム

○ワークショップ「自分でつくる 自分だけの柄」〈要予約〉

ミナ ペルホネンのテキスタイルデザイナー・田中景子と一緒に自分だけのオリジナルの柄をつくりませんか。パターンとなる「原型」を作り、それらを連続(リピート)させ模様を作ります。色の組み合わせ、配置のバランス次第で様々な柄ができあがります。

日時:8月20日(土)①10:30-12:00②13:30-15:00

講師:ミナ ペルホネン・田中景子

会場:青森県立美術館 ワークショップA

定員:各回20名(要事前申込)

※申込み期間等の詳細については、後日ホームページ等でご案内します。

当日ご持参いただきたいもの:自然のモチーフ、好きな柄や雑誌の切り抜き、自分で描いた絵など柄にしたいもの

※ペンや色鉛筆等は準備しますが、お好きな筆記具を持参いただいても構いません。



福岡会場でのワークショップ風景

○トークショー:ミナ ペルホネンのはじまりとこれから〈参加無料〉〈要予約〉

ミナ ペルホネンを支える3人のクリエイターによるクロストークです。

日時:8月21日(日) 14:00~15:30

登壇者:ミナ ペルホネン・皆川明、ミナ ペルホネン・田中景子、ミナ ペルホネン・長江青

会場:青森県立美術館 シアター

定員:80名(要事前申込)

参加無料

(ただし企画展チケット半券又はオンラインチケットのQRコードが必要です)

※申込み期間等の詳細については、後日ホームページ等でご案内します。

●応募方法

青森県立美術館WEBページの該当イベント応募フォームより申込みください。

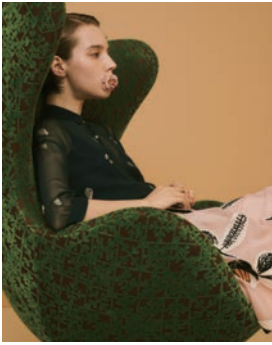
www.aomori-museum.jp/schedule/10182/

※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

※当選者の発表は当選メールをもってかえさせていただきます。

※応募の際にいただいた個人情報は、本イベントの連絡のみに使用いたします。

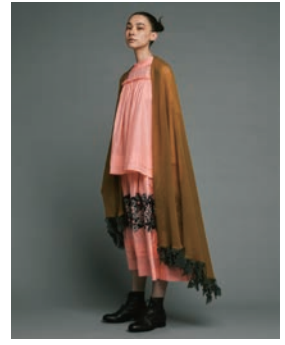
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、展覧会および関連イベントに変更が生じる場合があります。ご了承ください。



1. photo: Mitsuo Okamoto



2. "metsä" 2012→SS
photo: Yasutomo Ebisu



3. "rosy" 2018-19→AW
photo: Mitsuo Okamoto



4. "forest parade" 2012→SS
photo: L.A.Tomari



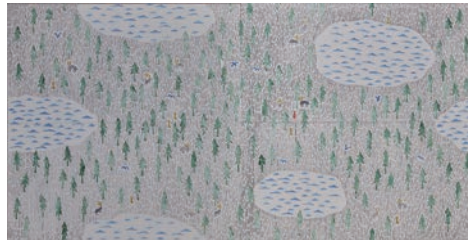
5. photo: Ryo Ichii



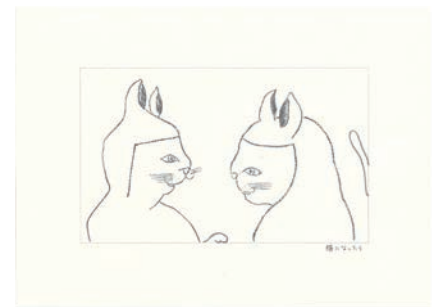
6. "life puzzle" 2019
photo: Hua Wang



7. "ballade" 2007-08→AW
photo: Yoshiharu Koizumi



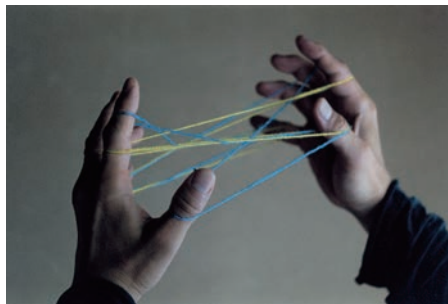
8. "one day" 原画 2018-19→AW
photo: sono(bean)



9. 「猫になったら」朝日新聞・日曜に想う 2021年4月4日掲載 挿画



10. "tambourine" 2017→SS
photo: Shoji Onuma



11. ©Yoshihiko Ueda



12. 本展ポスター画像

■貸出し条件

- 1 本展広報目的での使用に限ります。使用可能期間は本展会期終了までとなります。
- 2 【展覧会タイトル表記について】「ミナ ペルホネン／皆川明 つづく」
 - ・「ミナ」と「ペルホネン」の間は半角アキ
 - ・スラッシュは全角・「明」と「つづく」の間は全角アキ
- 3 展覧会名、会期・会場名のほか、画像の使用時には画像下のクレジットを必ずご掲載ください。
- 4 作品画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変、部分使用はできません。
- 5 雑誌の表紙などに使用される場合は、本展実行委員会までご相談ください。
- 6 WEBにてご掲載の場合には、コピーガード（※右クリック不可）を施しダウンロード不可にしてください。
- 7 概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で本展実行委員会までお送りいただきますようお願いいたします。
- 8 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展実行委員会へ1部ご送付願います。

●貸出し方法

希望される画像の番号、媒体名、御社名、ご担当者、ご連絡先をお書き添えの上、
E-mailでご連絡ください。（bijutsukan@pref.aomori.lg.jp）

●お問い合わせ：つづく展青森実行委員会（青森県立美術館内） 〒038-0021 青森市安田字近野 185 TEL (017) 783-5240
広報担当：長谷川睦 桑嶋智実 学芸担当：板倉容子